

一貫作業システムの現地検討会を開催

11月29日に、千葉県君津市戸崎国有林において、千葉森林管理事務所主催の一貫作業システムの現地検討会を開催しました。

この現地検討会は、林業の成長産業化に向け、効率的かつ低コストの森林施業を推進するため、伐採から搬出、その後の地拵え、植付といった造林作業の工程を一体的に行う一貫作業により、全行程の省略化や作業コストの削減に取り組んでいる事業地を参加者に見学してもらい意見交換を行うもので、千葉県職員や県内の林業事業体などが一堂に会しました。



担当者からの説明

当日は、48名の参加者があり、活発な意見交換が行われました。

はじめに開催にあたって、当所所長より、「林業の成長産業化を実現するためには、国産材の安定供給体制の構築などが重要な課題となっており、そのためにはいかに低コストで森林施業を行うかが重要。国有林のこうした新たな施業方法を今後も民有林に広く普及していきたい。」と挨拶がありました。

また、関東森林管理局資源活用課担当者から、「生産性の向上や低コスト化のためには、日報付けの習慣を身に付けて分析を行い、課題をあぶり出して、対応できることから実践することが望ましい。」、同森林整備課担当者からは、「一貫作業システムは、伐採や搬出で使用した林業機械を地拵えや苗木運搬に活用し、伐採後に再造林を連続的に行うことで、再造林経費のコスト削減に繋がる。国有林の事例を参考にもらい、民有林でも取り組めるようサポートしていきたい。」との説明がありました。



アイアンフォークバケットとプロセッサを使用した集材・玉切り作業の実演

その後、参加者は、チェーンソーによる伐採、アイアンフォークバケットによる集材、プロセッサによる玉切り、ストレンジャーバケットによる積込などの生産工程の一气通貫的な実演作業や、アイアンフォークバケットを使った地拵え、ディプル（苗木植栽器具）を使ったコンテナ苗植栽の実演作業について、動画撮影するなどして熱心に見学していました。また、意見交換会では、コンテナ苗のコストや高性能林業機械の使い分けなどについて、活発な質問や意見が出され、参加者全体で考え方が共有され、終了しました。



アイアンフォークバケットを使用した地拵え作業の実演

千葉森林管理事務所では、今年度から初めて一貫作業システムに取り組んでおり、低コスト化に向けた知見を継続して集積していくことが重要と考えております。

今後も様々な意見を取り入れながら、更なる施業の低コスト化に向けて検討を進めてまいります。



参加者による意見交換会の様子